

全国の救急告示病院を対象とした認知症の人の 身体疾患に対する医療に関する調査 (平成25年度長寿医療研究開発費)

独立行政法人国立長寿医療研究センター
武田章敬、堀部賢太郎、新畑 豊、鷺見幸彦、鳥羽研二
帝京大学ちば総合医療センター
福家伸夫
東京都健康長寿医療センター
栗田主一

【目的】

認知症の人が身体疾患を来たした際に救急告示病院が提供している医療の実態を明らかにする。

【方法】

全国の救急告示病院(3,697ヶ所)を対象としてアンケート調査を行った。「臨床研究に関する倫理指針」を遵守して行い、倫理・利益相反委員会の許可を得て実施した。

【結果】

593ヶ所の病院から回答があり、有効な回答を得た589ヶ所について解析を行った。認知症の身体救急疾患の診療について、86%の病院が「通常行っている」「行うことが多い」と答えたが、7%の病院が「通常行わない」「行わないことが多い」と回答した。また、緊急入院については、83%の病院が「通常受け入れている」「受け入れることが多い」と答えたが、5%の病院が緊急入院を「通常受け入れない」「受け入れないことが多い」と回答した。94%の病院が認知症の人の身体救急疾患への対応が困難であると答えた。

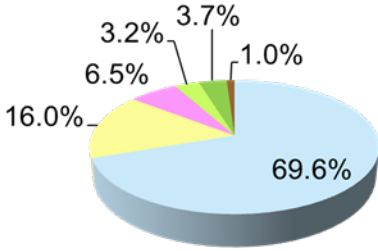
【考察】

今回回答を得た病院のほとんどが認知症の人の身体救急疾患の診療を行い、緊急入院の受け入れを行っていたが、一部で診療を行わなかったり、緊急入院を受け入れない病院もあることが明らかとなった。救急医療の現場では認知症の人の身体疾患への対応に困難を感じており、喫緊の対策が必要であることが示された。

調査結果の主要事項の概要

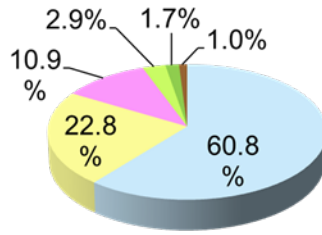
【認知症患者の救急外来での診療】【認知症患者の緊急入院】

n=589



- 通常行っている
- 行くことが多い
- 半々程度
- 行かないことが多い
- 通常行わない
- 不明

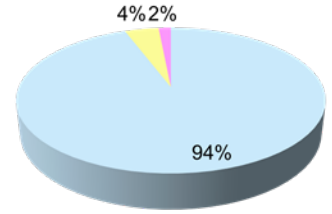
n=589



- 通常受け入れている
- 受け入れることが多い
- 半々である
- 受け入れないことが多い
- 通常受け入れない
- 不明

対応が困難と感じることがありますか？

n=589

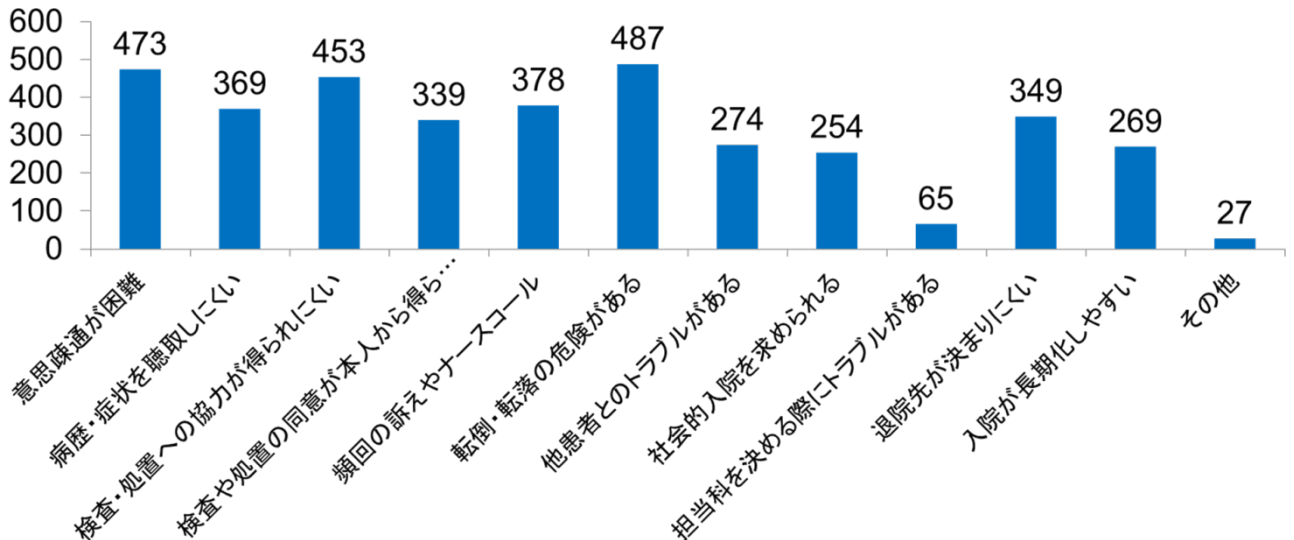


- ある
- ない
- 不明

ほとんどの病院で認知症の救急外来での診療や緊急入院に対応しているが、対応しない病院も一定の割合である。

【認知症患者の身体救急疾患への対応が困難である理由】

n=555 (複数回答)

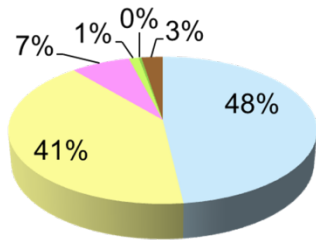


認知症の身体救急疾患への対応が困難である理由は、「転倒・転落の危険」「意思疎通が困難」「検査や処置への協力が得られにくい」の順に多かった。

【困ったときの対応】

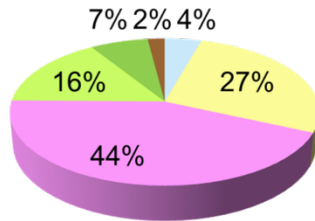
n=589

患者の不安や混乱を
取り除くよう努める



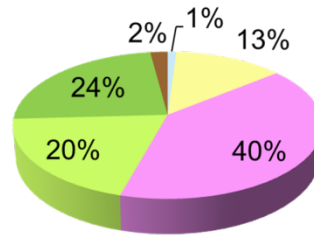
- 通常行う
- しばしば行う
- ときに行う
- まれに行う
- 行わない
- 不明

家族に付き添いを
要請する



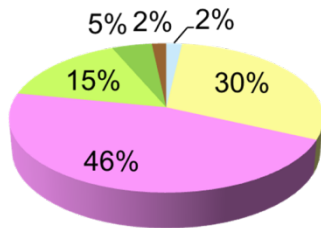
- 通常行う
- しばしば行う
- ときに行う
- まれに行う
- 行わない
- 不明

有料個室への入室を
要請する



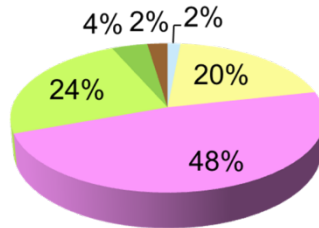
- 通常行う
- しばしば行う
- ときに行う
- まれに行う
- 行わない
- 不明

身体を抑制する



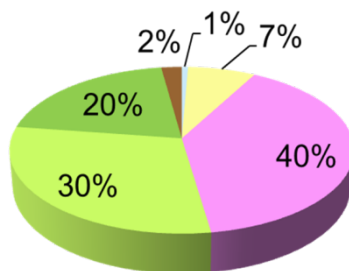
- 通常行う
- しばしば行う
- ときに行う
- まれに行う
- 行わない
- 不明

薬物による鎮静



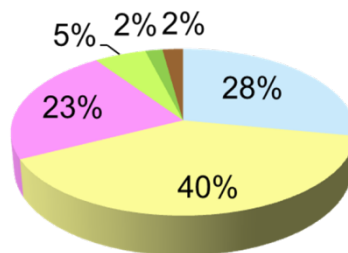
- 通常行う
- しばしば行う
- ときに行う
- まれに行う
- 行わない
- 不明

他医療機関への転院を要請



- 通常行う
- しばしば行う
- ときに行う
- まれに行う
- 行わない
- 不明

早期退院を求める



- 通常行う
- しばしば行う
- ときに行う
- まれに行う
- 行わない
- 不明